

硫黄鳥島

○概況（平成 18 年 3 月）

16 日に沖永良部島で、硫黄鳥島の噴気によると考えられるかすかな臭気を確認しましたが、火山活動に特段の変化はありませんでした。

16 日昼ごろ、沖永良部島にある沖永良部測候所（硫黄鳥島の南東約 65km）が屋外で感じる程度のかすかな臭気を確認しました。当時の気象条件から判断して、硫黄鳥島の噴気に含まれる火山ガスによるものと考えられます。沖永良部島では、これまでも同様な臭気が年に 1～2 回程度の頻度で確認されています。

当時の硫黄鳥島の噴気活動の状況は不明ですが、気象庁気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している島内での地震観測によると、期間中の地震活動には特に異常はありませんでした。

なお、本年 2 月 23 日に気象庁長崎海洋気象台が海上から行った観測によると、島の北側に位置する硫黄岳火口付近(図 1)及び島の中央部に位置するグスク火山火口(図 1)で弱い白色噴気を確認されています。

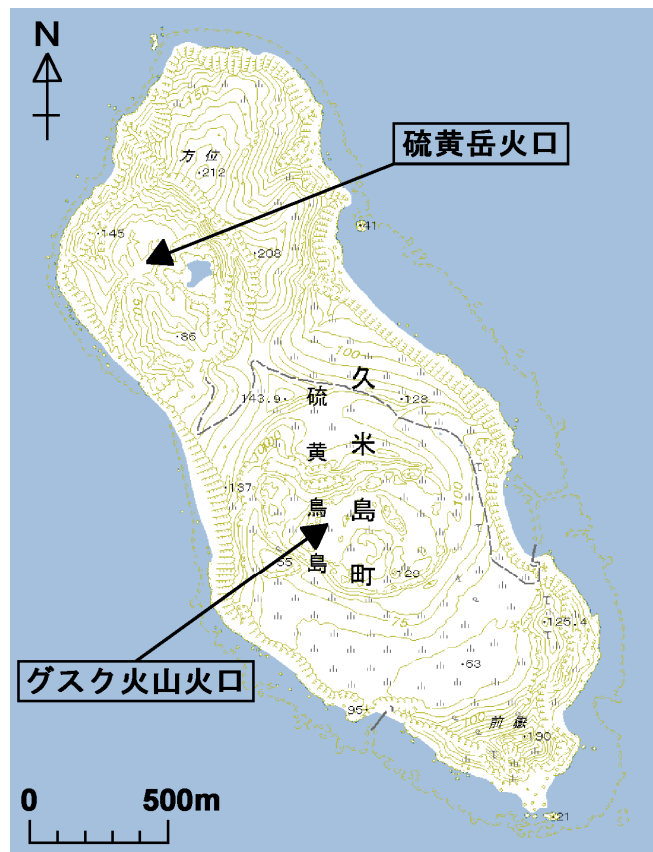


図 1 硫黄鳥島 火口の位置図

※本資料は気象庁のほか、東京大学のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『25000分の1地形図』を複製したものです（承認番号：平 17 総使、第 650 号）。